

金沢箔を町づくりに生かすためのデザイン研究

— 金沢箔業界との産学協同研究報告 —

黒 川 威 人

1. はじめに

英語小文字のジャパンは漆工芸品をさすが、その代表的なものは金箔を使用した蒔絵であろう。マルコ・ポーロが「東方見聞録」の中で、日本のことを「黄金の国チパング（ジパング）」と伝えたのは、誇張にせよ、金箔が蒔絵のほか仏閣などの建築にも盛んに使用された状況を指したものと思われる。当時の日本が豊かな産金国と見られていたことは、同書以外の文献によっても知ることができ、このようなイメージは唐宗以来の中国ではかなり一般的なものであったようだ¹。時代は下るが、金沢でも金箔がわらが使われていたことを示す発掘品がある。

さて、その金沢における箔打ちの歴史は、後述するように幕府の命による中断はあったものの、すくなくとも藩政期中頃には確立していたと考えられている。金沢箔は現在、その生産量において国内の99%以上を占めるといわれ、国の伝統的工芸品産業の中でも異彩を放つ存在である。しかしながらその利用は、漆器や仏壇をはじめとする美術・工芸品が大半であって、建築や屋外構築物に使用される例はきわめて少ない。このため、金箔の大生産地であるにもかかわらず、町を歩いていてその存在に気付くことはほとんどない。

金沢は「世界都市構想」²を掲げて、歴史を重んじ個性と品格を備えた都市を目指しているが、そうしたまちづくりには、このような金銀箔製造の歴史と伝統はもっと活かされるべきではあるまいか。折しもこの業界は伝統的工芸品産業全体の不況に直面しており衰退が懸念されている。この双方を解決する方策として町並のデザインに金沢箔を生かし、その活用を図ることが望まれるのである。さらにい

ば、そのプロジェクトには環境デザインの視点・手法が役立つはずである。本研究はそうした理念の下、金沢美術工芸大学環境デザイン専攻を中心とした学生たちと、金沢箔青年会を中心とする石川県箔商工業協同組合との協同によって進行中のプロジェクトであり、本稿はその一端を紹介するものである。

2. 研究の背景

2.1 金沢箔の歴史

金沢箔の歴史について簡単に紹介しておきたい。

当地方は仏教が盛んな土地柄であり、史上名高い「百姓の持ちたる国」として、前田氏支配前の100年近くを栄えた背景から、仏閣を飾るための金箔の需要は高かったはずである。しかし、箔打ちが存在したという確証はない。金沢における箔の歴史は文献の上では、加賀藩祖前田利家が文禄2年(1593)、豊臣秀吉による朝鮮の役の際中より、国元へ金・銀箔の製造を命じる書を寄せているのが始まりである。

江戸幕府は元禄9年(1696)には江戸に箔座を設け、全国の箔の生産・販売を統制した。後に箔座は廃止されたが、その権限を金座に移し、金・銀箔の生産は江戸・京都の箔屋以外には許されなくなった。統制したということは、すなわち、あちこちで様々な形で箔打ちが行われていたということを意味し、大消費地としての金沢には当然箔打ち業が存在していたと考えられる。しかしこれ以降、少なくとも表立っての箔打ちは消滅する。

文化5年(1808)消失した金沢城二の丸御殿を再興するため、多量の金箔が必要となり、京都より箔打ちに熟達した職人が呼び寄せられた。これを契機に金沢の町人の間に、製箔業を確立しようという動

きが起った。12代藩主斉広は、文政2年(1819)兼六園内に竹沢御殿を建てたが、そこに使った金箔はすべて金沢で作られたものであるとされる。一方、箔の製造販売について幕府の公認を得たいとする箔屋仲間の運動が粘り強く進められ、弘化2年(1845)ようやく江戸箔売りさばきの公式の許可が下りた。製造に関しては、この後も運動が続けられ、元治元年(1864)藩の御用箔に限って打ち立てて良いとの免許を得るのに成功、これを機に金沢の金箔は質・量ともに格段の進展を遂げることとなった。

明治維新以後、箔の統制はなくなり、その庇護下にあった江戸箔業は消滅したが、金沢は箔打ちに適した気候風土にも恵まれ、もともと優秀であった箔打ち技術とともに発展を続け、明治30年代には国内における独占的な地位を確立するにいたる。大正4年(1915)には箔打ち機械の開発に成功、その普及もあって、第一次世界大戦時には供給の止まったドイツ箔にかわって金沢箔が世界的な商品の座にのしあがったのである³。

昭和52年には我が国の伝統的工芸品産業の用具材料部門において、初の通商産業大臣指定を受けるに至っている。

2.2 箔業界の現状

箔業界の営業先は、ほとんどが寺院・仏閣・仏壇・仏具関係である。しかしその需要はピーク時の3分の1とも4分の1とも言われており、衰退が著しい。その要因としては以下のことが考えられる。

- ・ライフスタイルの変化による和室の減少、および仏壇の小型化。
- ・仏壇の普及率が高まったことで、代替え需要がメインになってきた⁴。
- ・不況の影響で仏壇の買い控えが起こっている⁵。

これを打開するには、現代に適合した金箔の用途を積極的に開拓して行くことが求められるが、零細企業の多いこの業界には製品開発スタッフという職種自体が存在していない。このため行政による支援策もいくつか実行されているが、あまり実効があがっているとはいえない状況である。ちなみに、本

稿の研究事業にたいする支援もその一環であり、「箔の日」イベントに対しては金沢市が、新製品開発に関しては県と経済産業省が助成を行って来ている。

一方で、産業としてでなく、金箔の歴史文化を正しく伝えるための支援事業というものは少ないが、こうした視点からの施策ももっと強化する必要があるのではあるまいか。

最近の動きとしてはプラチナ箔の出現がある。本来展延性には劣るプラチナを金等との合金割合によって金箔なみの薄さに打ちのぼすことに成功したもので、開発した高岡製箔によれば、耐候性にすぐれていることが特徴である。これを使用した建物として東山茶屋街の中に店舗を展開した同社が、敷地内の土蔵の外壁全面にこのプラチナ箔を張り、観光客の目を驚かせている。今後こうした屋外への使用が広がるきっかけになることが期待される。

2.3 環境デザインの役割

環境デザインは、20世紀の半ばを過ぎてから生まれた考え方であるが、モダンデザインが置き去りにした歴史性や地域性の復権を計ると共に、様々な領域との関係性や総合性を重視するデザイン理念である。地元、金箔とのコラボレーションによる本研究は、そうした理念がどのように具現化できるのかの実験場となることが期待される。

特に『町並みへの金箔の応用』といった屋外への展開を図るためには、これ迄の工芸やプロダクトデザインの手法だけでは対処が難しく、建築やパブリックデザイン分野へのシフトが必要である。この意味でも環境デザインが最も適した専門領域であることは明らかである。

実際の活動は、発想の可能性を広げるため2年目から全学の学生に門戸を開いているため、環境デザインの役割は、様々な領域からのバリエティに富む提案に対する調停役・まとめ役へと移行してきている。しかしこれもまた環境デザインの重要な役割の一つと考えてよからう。

3. 研究目的

- 1) 金沢箔を通じて金沢の歴史風土を学び、創作活動に生かすことを学生たちに学ばせること。
- 2) 金沢箔を活用し「世界都市・金沢」にふさわしい、美しく風格ある街並景観を実現するためのデザインを研究すること。
- 3) 上記を通じて、地域固有の伝統産業である金沢箔の振興に役立つデザインを研究すること。

4. 研究の進め方

4.1 年度による進め方の変遷

各年度で以下のように少しずつ変化している。

1) 平成14年度

環境デザイン専攻4年生前期の夏休み前を当てる短期課題として取り上げた。単一専攻のそれも4年生という学年で、クラス20人全員が参加したことは、後になってみれば画期的な出来事であった。作品は「箔の日」イベントにあわせ、金沢市民芸術村で展示を行った。

2) 平成15年度

5月末に「金箔フォーラム」と銘打ったワークショップ付きのシンポジウムを、全学から希望者を募り開催した。「金箔使い放題」と銘打ったためか、学部1年から博士課程までほとんど全ての専攻・学年から応募があった。このフォーラムで提案されたアイデアの一部は参加学生と青年会の協力で8月の「箔の日」イベントで実施された。さらに継続的に青年会との共同による活動の継続を希望する学生達による研究会『金箔研究会』が立ち上げられた。

この年より、研究としての進行やまとめに対するコンサルティング、および研究報告書の作成に関し、青年会と筆者の研究室との間に委託研究契約が取り交わされることとなった。

3) 平成16年度

3年目に入り学生との協同は前年末に立ち上げた「金箔研究会」が中心となって、ゆるやかな研究会という形をとって継続している。「箔の日」イベン

トはこの年初めて「箔祭り」という名称のもと、東山の宇多須神社境内を会場に開催された。

現在は研究的な仕事は黒川研究室が主体となっており、イベント的な行事は学生が主体となっていく形が定着しつつある。

なお派生的な活動として、平成15年には、10月に筑波国際会議場で開催されたアジアデザイン国際会議において、パネルによって1～2年度の活動を紹介しているほか、この年発足した「金沢まちづくり市民研究機構」のディレクターに選任された筆者が、青年会との協同研究を想定したテーマ「金沢箔を街づくりに生かすためのデザイン研究」を設定、メンバー6人が参加しての活動も開始した。このグループの研究活動は時に金箔研究会の学生たちとの共同開催で行った。平成16年8月には研究をまとめ一旦終了したが、同年9月からは新たなメンバーにより継続した研究テーマに取り組んでいる。

さらに平成16年度の秋には、日仏協会の30周年記念行事の一環として「日仏金箔フォーラム」を要請され開催、シンポジウムとともに作品展示やワークショップ（写真1）を行なうなど国際的な活動へとさらに一歩踏み出している。

4.2 青年会との協同方法

地元産業との産学協同のメリットを生かし、大むね下記3つの点において相互の協力をしながら研究

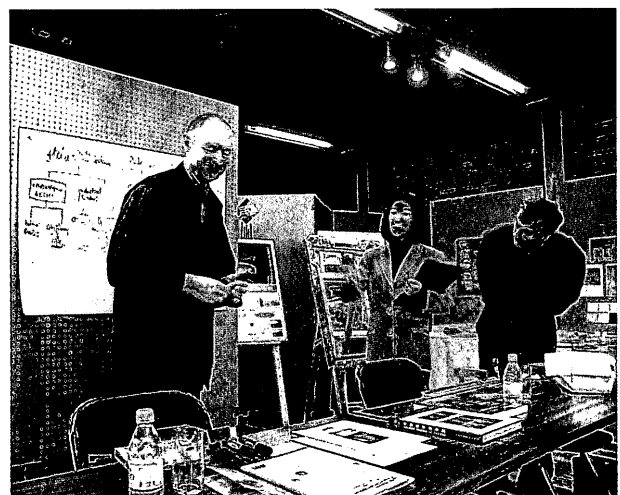


写真1. ワークショップにおけるJ-Pランクロ氏（左端）

を行っている。

1) 情報の収集

本学美術工芸研究所では世界の金箔調査を数年にわたって行ってきたが、この蓄積をもとに金箔に関するレクチュアを適宜開催した。一方、金沢市内には金箔製品を展示販売する店が多数あり、これらの現地調査を随時行った。また金沢は非戦災都市であるため、古建築およびこれに附随する看板類などに金箔を使ったものがみられることが特徴であり、これらの情報をサーベイにより収集中である。平成15年には富山県水墨美術館のほか、京都の西本願寺、二条城、金閣寺などを見学し、より広範囲に、かつ歴史的にも価値ある金箔の使用法について見識を深めた。

2) 体験と実験

金箔箔青年会メンバー指導による箔押し（貼り）体験によって、参加者全員が金箔を使った経験を共有できるようにした。また新たな提案に対しては業界の積極的な協力で実験・試作ができる体制としている。デザイン提案と制作は学生、制作支援は青年会という役割分担を基本としながら進めている。

3) 交流と発表の場

金箔箔青年会と学生は平成15年春、合宿しグループディスカッションを行ったが、これ以降定期的にミーティングを重ねている。地元定住の業界人に対して、学生たちは全国から集まった短期滞在者がほとんどであり、両者の交流は単なる学生対社会人の枠を越えて、ものの見方考え方で相互に大きな刺激となっている。

一方、発表の場は、2年連続で金沢市民芸術村での「箔の日／8月9日」イベント会場の後、3年目の今年は宇多須神社において開催したが、作品展示を通して市民へのアピールの場となっている。同神社は金沢の箔打ち業にとって縁の深い地域⁶であり、観光客の出入りの多い東山茶屋街に隣接しているとあって、展覧会場とは異なり、一歩踏み込んだ形での展開が可能となった。これらの展示では、パネルやモデルでの提案に止まらず、一部作品は実物制作を行っているが、こうした発表およびプロトタイプ

での実現の場が約束されていることは、参加学生の意欲を高める効果があり、金沢日仏協会30周年記念イベントでの展示等はその好例である。

イベント開催にあたっては環境デザイン学生によるディスプレイデザインと全員による会場設営を行っているが、すべての参加者が得難い体験を積み場となっている。

5. 研究結果

5.1 平成14年度

環境デザイン専攻4年生全員参加の短期課題として実施した。

テーマ：「町並みへの金箔の応用」

授業期間：平成14年6月14日～7月15日

展示期間：同上年8月9日～11日

展示場所：金沢市民芸術村ピット5

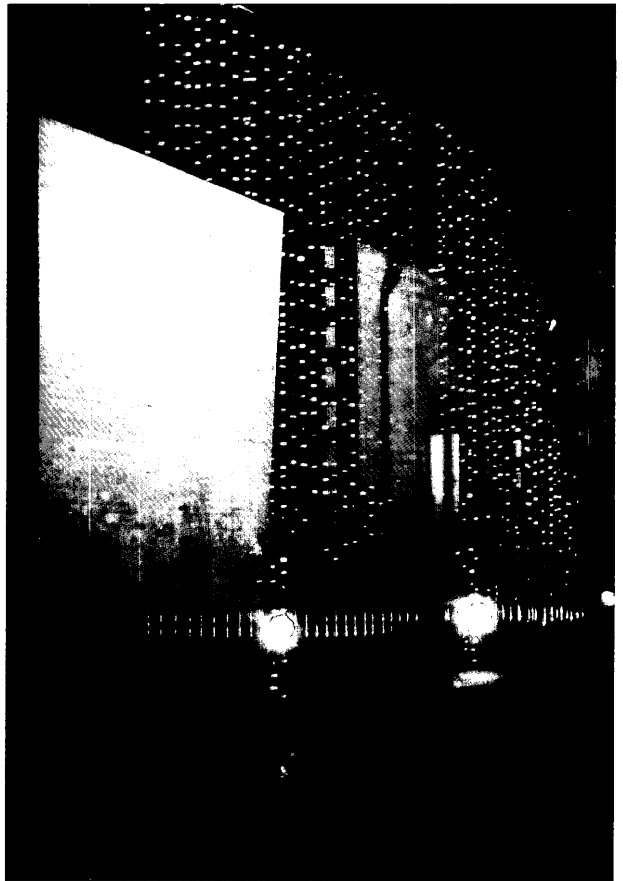


写真2. 芸術村アプローチに設置された学生作品「金の雨」

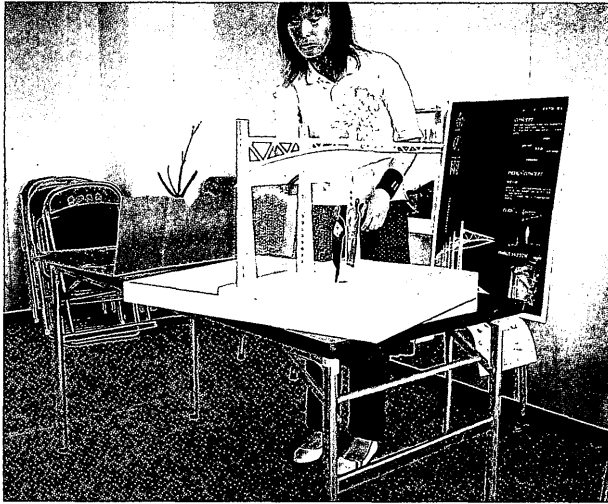


写真3「金の雨」プレゼンテーション風景

進め方：授業を始めるにあたっては、伝統産業と環境デザインがどのような関係があるのかを筆者がレクチャーし、続いて本学美術工芸研究所の川上明孝教授より、同研究所が行ってきた世界の金箔研究からの報告をして頂き、金箔に関する基本的な知識を与えた。続いて、金箔青年会メンバーによる箔押し体験を行った。青年会が通常小学生らに行っている1辺が10センチのプラスチック製角皿に自由に箔押しをするものだが、手で何かを作り表現するのは本学学生の得意とする所であり、青年会指導メンバーも驚く優れた作品がいくつも生まれて、お互いが金箔という素材に対して様々な可能性を見いだすことができた。

最初はグループワークで調査とそのまとめを行い、最後は個々人のアイデアをデザイン提案としてまとめさせたが、中間と最終の合評会には青年会メンバーも参加しお互いに意見を交わした。

なお、あらかじめ最優秀作品は実物を製作して箔の日イベントで展示することとしていたが、審査の結果、「金の雨」が最優秀となり、青年会と学生有志の協同により現地に設置された（写真2）。

なお、会場のレイアウト構成、サイン等全て環境デザインの学生によって実施され、特に展示前夜の設営作業は深夜におよんだが、学生たちにとっては、展示に関する得難い体験ができたと思われる。



写真4.「金の雨」現地設置風景

5.1.1 事例紹介

以下2002年に発表した内容の一部を紹介する。作品名の後は作者名。

1)「金の雨」 川瀬亜由美

グランプリを獲得して実物を制作、会場アプローチを飾った作品である。会場へ至る屋外回廊に設置されたものだが、夕日や水面からの光を受けその美しさで観客を会場へ誘う効果があった。金箔の小片づくりから、どのように釣り糸に固定するかの技術的な面で青年会との協力がなされた(写真3-4)。

2)「Under the Bridge Renovation」 小野寺美穂。

金沢城、石川門に至る石川橋アーチ下面を金箔張りにしようというものだが、この場所にこそ相応しい鮮烈な印象と歴史性を同時に感じさせる。この作品は日仏金箔フォーラムにパネリストとして参加した水野一郎氏から、は最もインパクトのある作品として評価を受けた。

3)「空のベンチ～金箔を利用した休憩施設」

奥小百合

緑豊かな中央公園に映える金箔のオブジェ兼ベンチである。大きな円盤形ベンチは周りの木々と空とを写し出し、自らも風景に溶け込んで休息する。

4)「金沢・金を辿る旅」 三崎由貴

金箔タイルが要所に点々と埋め込まれた道を辿ることで、地図とにらめっこではなく、景観を楽しむ

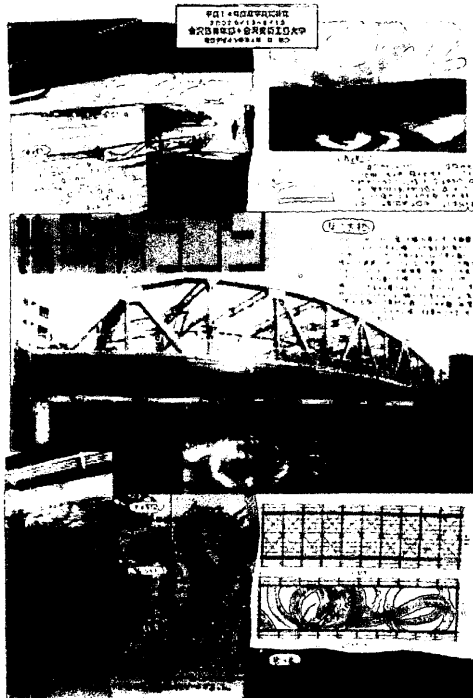


写真5.「片町ドラゴン」

ながら名所をめぐる事が可能となる。観光客にとって楽しい装置である。

5)「吹雪—First Impression—」 水野寛子

何時間かの列車の旅を経て目的の駅に着く。列車の扉が開いた瞬間、金箔の吹雪が旅人を歓迎してくれる。金沢を印象づけるプラットホームの「送迎」装置である。

6)「片町ドラゴン」 林祐介 (写真5)

かつて犀川は暴れ川として知られ、今は繁華街である片町一带は洪水の度に川筋となっていた。ドラゴンは水の神であるとともに、片町の繁栄の神でもあると考え犀川大橋の下面に金箔ドラゴンを描き、水面に映るその姿を楽しもうという趣向である。

7)「金箔ピアガーデン」 伊丹典子 (写真6)。

夏の楽しみはピアガーデン。金箔の輝きは、夜をいやがうえにも賑やかに、美しく演出してくれる。

もちろん日中は、金色の陽光に包まれ、光と遊べる金沢ならではの贅沢な舞台となるだろう。

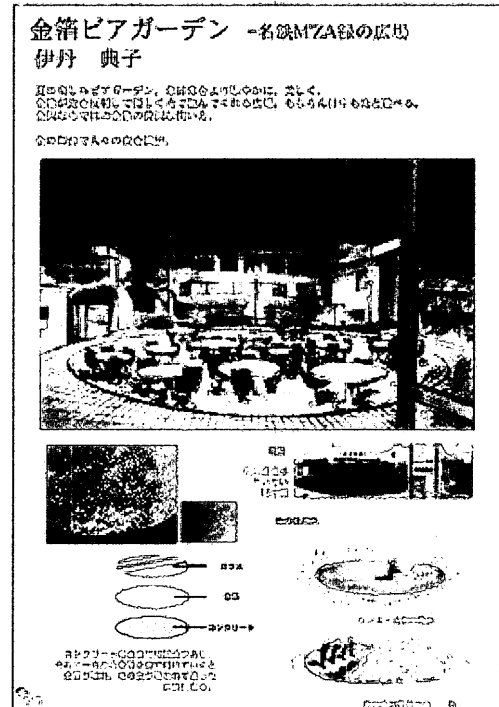


写真6.「金箔ピアガーデン」

5.2 平成15年度

5.2.1 金箔フォーラム

対象を全学に広げ「金箔フォーラム」を開催、合宿形式でパネルディスカッションやワークショップを行った。

期間：平成15年5月31日～6月1日

場所：金沢市ふれあいの里 (医王山)

概要：初日午前は基調講演とパネルディスカッション、午後は金箔押し体験とグループディスカッション、夜も中間発表を行なった。翌日午前には市中の調査を行い、午後、最終発表と講評で締めくくった。

基調講演：「金箔はどう進化すべきか」黒川雅之氏によるもので、概要は「陰影礼賛 (谷崎潤一郎)」の記述をヒントに、蒔絵や金屏風、金襴が美しさを発揮するのは薄暗い日本建築の内部空間であったことを指摘、現在の金箔工芸は環境の変化にたいして進化していないとの見方が披瀝された。つづいて氏の考える伝統産業デザインの9つのキーワード、「反抗」「遊戯」「愛情」「原型」「削除」「余白」「欲望」「主張」「記憶」に基づいた解説が、映像を使いな

がらなされた。

パネルディスカッション：続いてパネルディスカッションにうつり、それぞれ専門の異なる3人の学識経験者と3人の業界代表による報告と討論が行われた。コーディネーターは筆者がつとめた。以下簡単に内容を紹介する。なお発表時はそれぞれ映像を使ったプレゼンテーションであったが、ここではパネリストから提出されたレジュメの抜粋（括弧内）にとどめたい。

寺田栄次郎教授：金箔と絵画の関係について下記のような解説がなされた。

1) わが国と西洋の金箔の用法を、絵画を中心に美術全般において比較すると、次のようなことが言えよう。西洋では光沢が強く（ポリメント7）、定型・規格的な配置で、立体的に（盛上げ、刻印など）、比較的大きな薄片を用いることが多い。これに対しわが国では艶消し、不定形な配置で、平面に、小片を散らすことが多い。とりわけ日本的な特徴の強い金沢では、このわが国の伝統的な好み・傾向を理解しておくことが必要であろう。

2) 金箔は「もの」であり、ものは触れて手と身体と目と心に染み込ませて初めて理解できる。毎日金箔に触れ、そのなかで考え、新たな用途を生み出して欲しい。」

角谷修助教授：インテリアデザインや商業空間のデザインを専門とする立場からの一つの事例として、

氏が関わったある材料メーカーによる、「金箔を使用して手軽に接着出来る製品を開発する過程」が紹介され、「本物素材の意義とそれを求めている現状」の説明がなされた。

山崎剛助教授：工芸史の立場から「蒔絵と金箔」が古今東西の作品スライドで解説された。

「ヨーロッパの古城を訪ねると、桃山時代や江戸時代に日本から輸出された漆器に出会うことがある。多くは漆黒の地に金蒔絵を施したもので、東洋趣味の室内に飾られ、大型のキャビネット等は金箔で装飾されたヨーロッパ製の台の上に置かれている。金の粉蒔きと金の箔押しの組み合わせは、ローカルな技法とグローバルな技法の同居と言い換えてもいい。私たち日本人には、ともに見慣れた技法だが、蒔絵を知らなかったヨーロッパの人々にとって、両者の質感の相違は際だって見えたとはいえない。この質感の相違が、極東アジアから渡来した日本漆器の異国性を強調するのに重要な役割を演じていた。」

業界代表：今井金箔社長、高岡製箔社長、これに急遽参加した石川県箔商工業協同組合の恩地理事長が加わり、それぞれの立場から金箔業界の現状と見通し、希望が述べられた。いずれ劣らぬ熱い金箔振興論が披瀝されたが、残念ながら時間が足りず、議論を収束するに至らなかったのでここでは割愛する。

ワークショップ：午後からはまずワークショップの

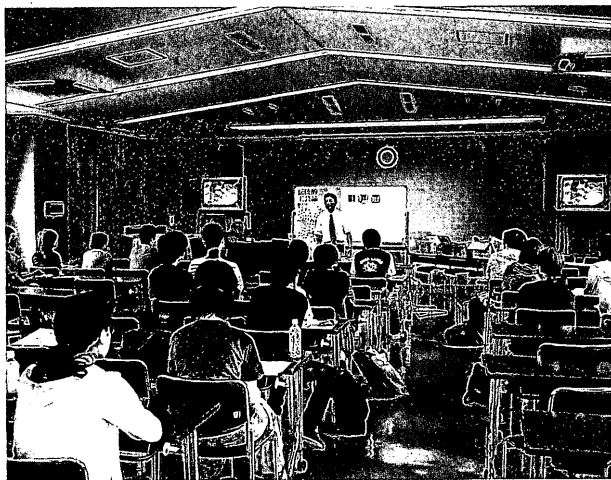


写真7. 「金箔フォーラム」開会式風景



写真8. ワークショップ「箔押し体験」風景

ためのグループ分けを行うこととし、青年会と美大生、それも専攻がなるべく重複しないように6つに分けた。

第1部として、箔押し体験を全員で行う。テーマは各グループのマークを金箔で表現することとした。完成後、各グループで話し合いや投票によって第1位となる作品を決定、このマークをフォーラムを通じて使用することとした。(写真8)

第2部は各グループで「金沢の金箔を、どうしたらもっとアピールできるか、どのような活用が考えられるか」をテーマにブレインストーミングを行った。

夕食後はブレインストーミングのまとめを行い、全員で合評会を行った。

翌日は町中における実情をサーベイする目的で、各チーム山を下り、午前中を費やして金沢市内の金箔店等で調査を行った。

午後は合宿所へ戻り、まとめを行った後、最終の報告会を開き、コーディネーター(筆者)による講評を持って終了した。

5.2.2 箔の日イベント(金箔箔ワールド2003)

金箔フォーラムの結果は各チームで文書によるまとめとともに、前年に続き金沢市民芸術村ピット5において、箔の日を中心に提案作品を展示することとなった。ダイアグラムやマップによる内容のまとめ・表現はデザイン系の学生が、その文書化には芸術学専攻の学生が活躍した。

制作にあたっては数回の打合せ会を持った後、芸術村会場を3日前から借り上げ、学生と青年会協同で作品づくりが行われた。又、金箔作品の金沢美大校内公募展が行われ、こちらはそれぞれのアトリエにおいて製作した作品が会場に持ち込まれ展示された後、筆者と青年会によって金銀銅賞がそれぞれ選定された。以下、当日展示された作品のうち、いくつかの事例を紹介する。

1) 駅西広場のモニュメント 環境デザイン1年生有志による協同作品 獄理恵子、館紗也子、比嘉文愛、松下晶子、山本周(写真9-10)

金沢駅西の巨大オブジェ前に8本の柱を立て、柱

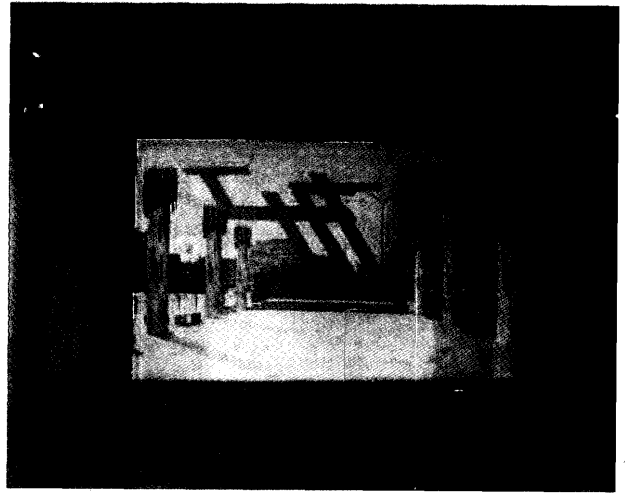


写真9. 金沢駅西広場モニュメントの提案(中央はCG画像)



写真10. モニュメント制作風景

上部の縦格子裏から青色の反射光を落とし、柱面の金箔模様を浮上らせようとの趣向である。

2) 金箔壁画『加賀獅子』『兼六園』 佐藤文紀(工芸1)、下野久仁子(油1/協力)(写真11-12)

会場入り口にトンネルを設置し、その壁面を飾った大型金箔壁画である。陰影礼賛にならない、あくまで薄暗い空間で、かすかな照明により壁画が浮かび上がるよう工夫したものである。地下街等には応用可能と思われる。制作にあたっては、その大きさから多くの学生や青年会員が手伝った。



写真11. 金箔壁画芸術村設置風景

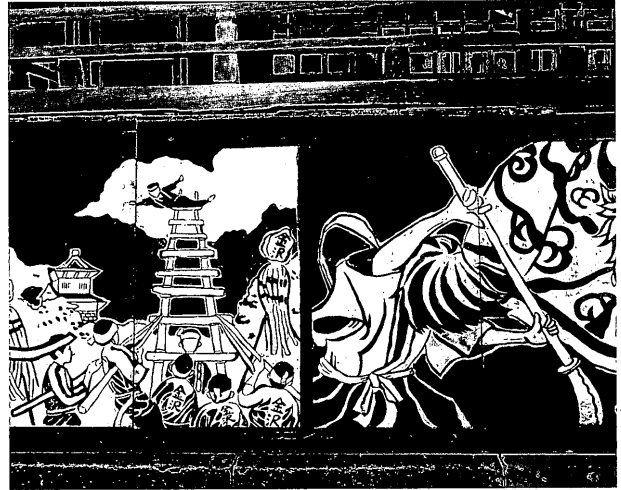


写真12. 2004年箔祭りにおける壁画「加賀獅子」展示風景

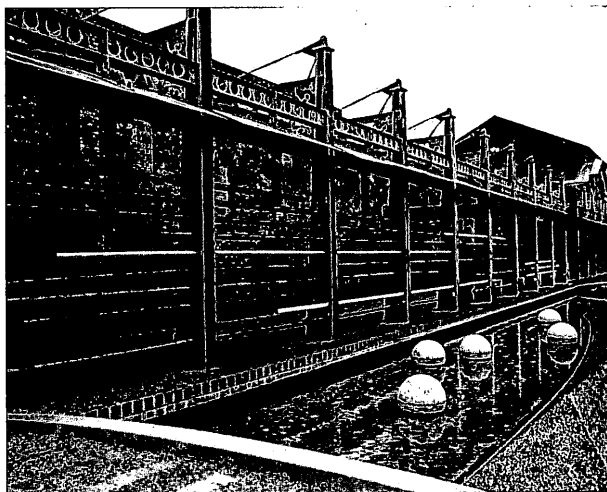


写真13. 会場アプローチサイン

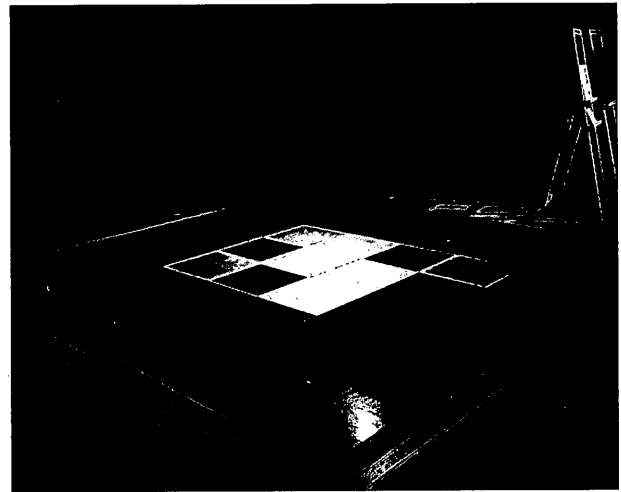


写真14. 金箔の床パネル

3) 会場アプローチサイン 日下 穰、友中美音、山下祥平ほか (写真13)

環境デザイン3～4年生有志によるもので、前年の「金の雨」と同じ場所で、紙管を使用、ブルーと白と金箔のパイプが観客を誘導するように設営された。なお会場内のサインも全て環境デザイン3～4年生が手掛けた。

4) 金箔の床パネル 小菅謙三 (油画1)

今迄使われたことがない、床に金箔を使うという実験的な試みである。透明プラスチックの裏面から張り込み、構造用合板を裏打ちすることで実現したが、同様の技法によるカラーパネルとの組み合わせ

により、これ迄にないゴージャスで華やかなインテリアができそうである。(写真14)

5) パンとおかし 石山稚聖 (油画1)、二宮愛 (環境デザイン2/展示協力) (写真15/次頁)

和菓子には以前から金箔が使われているが、これは洋菓子やパンに応用したものであり和洋折衷の発想である。パンやカステラはナイフで切り分けると切り口から次々と金箔が現れて楽しい。

金箔入り器パン パンというのはちぎってみれば分かるように意外と強度がある。これらの器は全て食べられる容器であり、中に盛る菓子とのアンサンブルと、器ごと食べるというトリッキーな面白さを

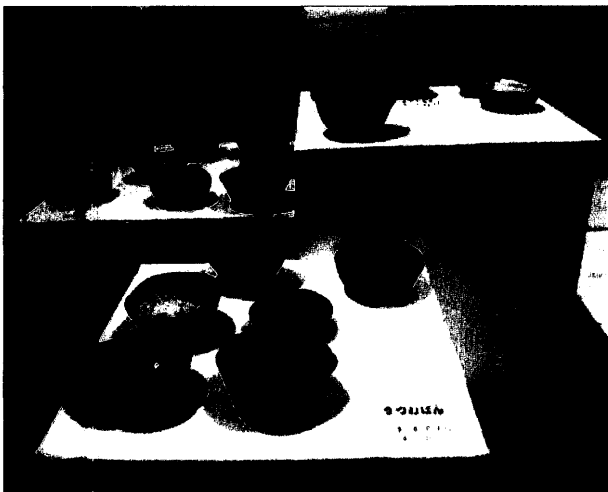


写真15. うつわパン

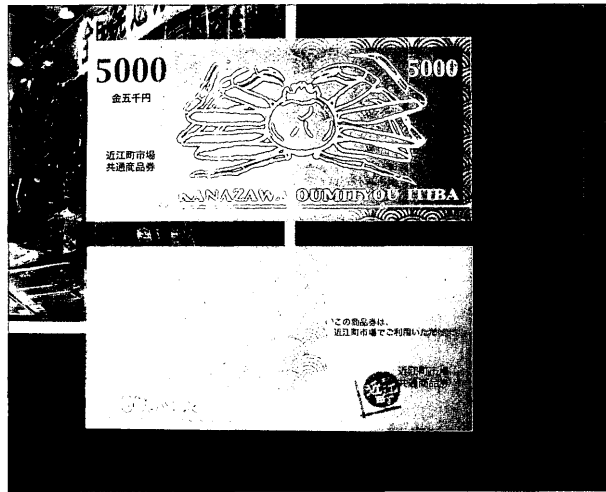


写真16. 「地域通貨」の1例

楽しむことができる。

6) 地域通貨—近江町で使えるギフト券の提案

滝上愛子（視覚デザイン1／写真16）

地域通貨は最近各地で試みられているようだが、主には福祉にかかわるものである。ここで提案するのは新鮮な魚やカニ・エビ等日本海の極上の味覚にふさわしい、豪華な金箔の通貨である。1目見ただけでなにが買えるのかが分かる所が楽しい。

7) その他

以上のほか箔を使った作品の公募展は担当が遠藤誠明（日本画2）で受賞者は池田真也、石崎誠和、松本牧子の3名であった。いずれも絵画を専攻する大学院の学生であり、優れた作品であった。また完成はしなかったがスニーカーに金箔のワンポイントを箔押しした作品も試みられた（写真17）。なお、全体の制作展示統括は大学院の石黒雅史が担当し、活躍してくれたことを記しておきたい。

5.3 平成16年度

この年は前年度に結成した「金沢箔研究会」のメンバーによる活動を中心に、箔の日イベントに向け計画が練られた。この年初めて金沢市民芸術村を離れ、別な場所で開催することとなった。話し合いの末、金沢箔に縁の深い場所として東山の宇多須神社が選ばれた。

ここは後述する「心の道」のルートに当たるとともに、金沢における箔打の元祖的存在である能登屋佐助の箔打ち場が近くの卯辰町（西養寺前）にあったとされ、今も箔打ち業の盛んな地域である。

また、最近国の重要伝統的建造物群の指定を受けたため、観光客が増えて賑わいがました東茶屋街に隣接していることと、比較的広い境内があり催し物の開催には適していることも選定理由である。当日は晴天にめぐまれ、青年会メンバーの一人が参加する和太鼓演奏がオープニングに花を添えた。以下、主な行事と作品を紹介する。



写真17. スニーカーに接着剤で模様を描く石黒雅文（修士2）。右はデザイナー寺崎卓朗（環境デザイン3）



写真18.「箔祭り」風鈴型サイン

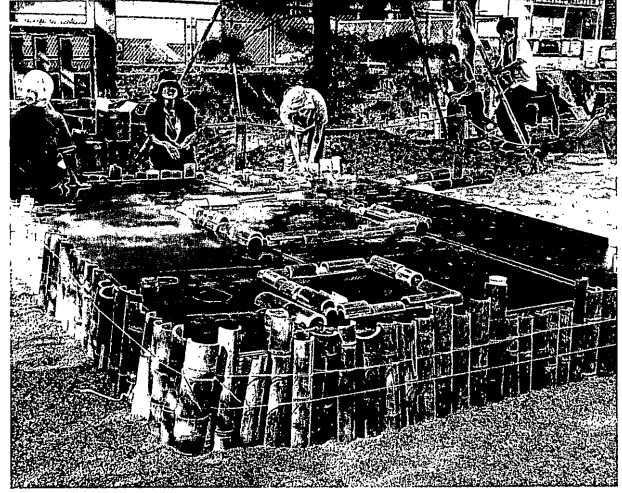


写真19.「箔すくい」のステージ設営風景



写真20.「箔すくい」の獲物にはしゃぐ少年



写真21. スタンプラリー受付風景

1) 箔祭りサイン 館紗也子（環境デザイン2）

箔祭りが開催されていることを知らせる軒先サインを、東の茶屋街に設置することになり、環境デザインの2年生が主に担当した。風鈴のように風に揺れると金属パイプ同士がぶつかって涼しげな音が出るものである。箔祭りのチラシ（担当：滝上愛子）を縮小したものを釣り下げ、風受けを兼ねている。金箔は金属パイプ部分に使用。（写真18）

2) イベント「箔すくい」 獄理恵子、比嘉文愛、松下晶子、山本周（環境デザイン2／写真19）

金魚すくいのように蛍や虫の形に切り抜かれた金箔フィルム片を接着剤を塗った竹のバトンですくい

取るというものである。床下から風を送って金箔片を空中にただよわせるのに苦労したが、小学校入学前の児童が夢中になって遊んでいた。（写真20）

「スタンプラリー」 渡辺 愛、市井歩美、百田絵美、前田優羽（日本画1）竹中香澄、福田直子（工芸1／写真21）

近所の神社を巡るコースを設定、団扇に描かれたポイントを全て回るとスタンプを押し、金箔を張ることができる。子供たちになかなか人気があったが、監視員の不足からコースを間違える子が居たり、2日目にはスタンプ地点の一つが都合で変更せざるを得なくなる等、いくつかの問題も残った。

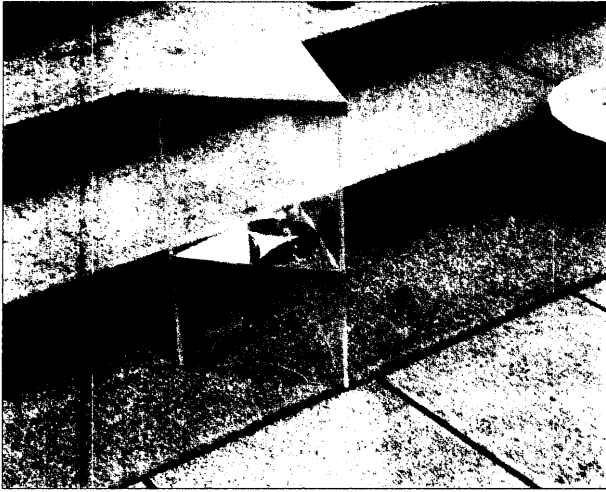


写真22. 照明付き腰掛け兼案内サイン

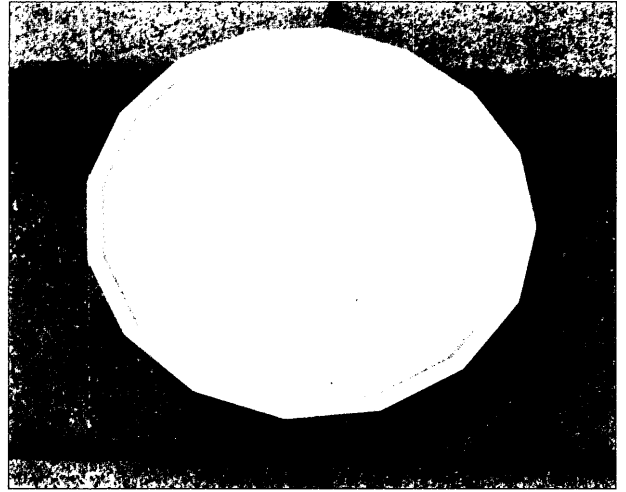


写真23. 手水鉢型照明オブジェ

3) 飲食物 石山稚聖(油2) 夏の祭りにふさわしく、金箔入り水ようかんや冷たいお汁粉等が好評だった。暑い日だったのでかき氷やジュース類が売れていたが、それに負けないだけの人気があった。これには学生運営施設「香林坊ハーバー」の協力があった。

4) 箔押し体験 社務所の一室を借りて行った。例年通りの青年会による箔押し体験パッケージによるもののほか、手透きと紙との併用による様々な用途を想定したものも一部用意した。

例年通りの箔押しは外国人観光客も参加する等状況があったが、試験的におこなった和紙などを使った新しい試みは参加者が少なかった。原因としては青年会メンバーがほとんど例年の箔押し指導の方に回ったことと、短時間に一定の体験を未経験者にさせるには、準備不足であったためと考えられる。

5) 試作品展示

後述する「心の道」プロジェクトのためのアイデアを学生たちからも求めていたことから、完成した試作品が境内で展示された。

(1) 照明付き腰掛け兼案内サイン 佐藤文紀(工芸2)

心の道を想定したサイン計画のためのアイデアの一つだが、アクリルを使って内部に照明を仕組んでいる所が目新しい。三角形の断面である所から3

方向の影が生まれ、作者はこれを方向サインとして使用するつもりだが、実際に現地でこれを設置できる場所はほとんどないと思われる。すなわち心の道は狭い所では1メートル50くらいの幅員しかなく、こうしたサインの必要な場所に設置できる可能性がほとんどないこと。さらに電源を引くためにはかなりの困難が予想されること。素材のアクリル板が接着による接合強度や、耐久性に疑問があること等である。ただ、照明とサインとの複合はこの地域では有効であると思われ、今後のデザイン展開にとってヒントの一つにはなったといえる。(写真22)

(2) 手水鉢型照明オブジェ 石山稚聖(写真23)

木製16角形の水盤を模した器の水面に当たる部分にアクリル板を張り、その表面を水紋をモチーフとした模様を金箔押しで表現したものである。内部にはLED(発光ダイオード)のライトが仕込まれている。電源は電池によるものもので、茶会等のイベント時の使用を想定したものである。油絵専攻生であることから、製品としての完成度にはかけるものの、瑞々しい完成が感じられる作品となった。実際の製品となる際も作者は木製を希望しているが、加工性や耐久性から考えてこれは木製には適さない形であることは明らかで、専門違いの学生にデザインを理解してもらうことの難しさを感じた。

(3) 釣り下げ型照明サイン 佐藤文紀(写真24)

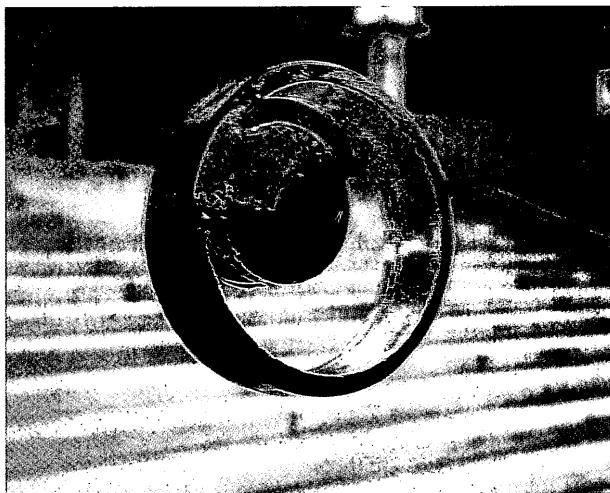


写真24. 釣り下げ型照明サイン

からす簀しの目玉のような釣り下げ型の照明である。表面は黒漆を塗り、金箔が貼られた三日月型の隙間から仕組まれた照明がもれる仕掛けである。風に揺らぐため一定方向を指し示すサインとしては不適だが、イベント時の提灯代わりのオブジェとしては使えるかもしれない。これもLED内蔵。

(4)その他 内側には金箔を張った竹筒の中にキャンドルをたてたものを、夕刻より群として境内階段に展示(箔すくいメンバーによる/写真25)。

このほか、前年の試作品である心の道用石柱サイン、金箔床パネル、初年度のプレゼンテーションパネル等を展示した。

5.2.3 反省会

この年初めて屋外で「箔祭り」と銘打って開催したこともあり、これ迄の展覧会と比べて、様々な評価と問題点が浮かび上がった。以下は青年会定例会(8月30日)での意見と学生たちを交えたミーティングでの意見を集約したものである。

良かった点は：

- 1) 近所(東山)の評判が非常に良かった。前もってチラシを撒いてくれれば協力したい。風鈴をもっと設置してほしかった。など地元の人たちには積極的に応援しようとの姿勢が感じられた。
- 2) 青年会メンバー、学生ともに楽しめたイベント

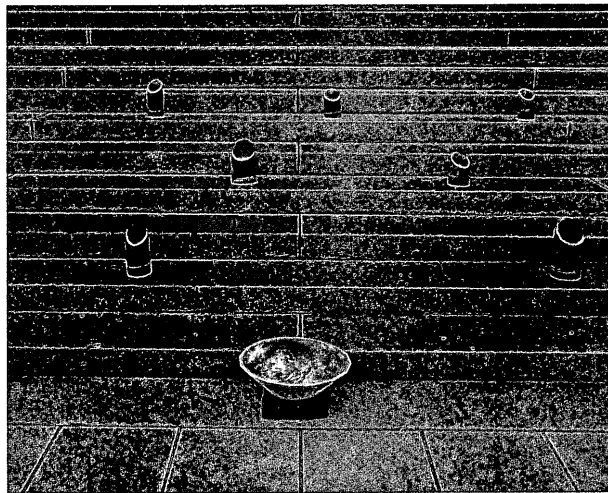


写真25. 金箔貼り竹筒にキャンドルがともされた

だったと思う。

- 3) 子供たちに喜んでもらえる内容だった。
- 4) 予想以上に集客できてよかった(およそ600人が参加)
- 5) 野外、現地で行うよさがあった(地元の人とのふれあい、浴衣を着て参加等)。

反省点としては：

- 1) 金箔をアピールする展示物がもっとあった方が良かった。
- 2) 基本的な箔にたいする知識を得られる展示があれば良かった。
- 3) スタンプラリーに関して、監視員にはきちんと持ち場を守ってほしかった。卯辰山工芸工房迄のぼって行った子がいた。スタンプの押し方には工夫がいる(フロッタージュの方が良かった)。
- 4) 箔すくいにに関して、遊んだ後の残骸が見苦しく気になった。
- 5) 全体的にスケジュールに余裕が欲しかった。
- 6) 青年会と学生との交流はあまりスムーズに行っていなかった。
- 7) 青年会とは別に行った箔張り体験の意義が全員に理解されていなかった。

以上、やや反省点の方が多くなったが、屈指の観光地であることと、箔打ち業ゆかりの地の強みがあり、相応の手応えがあるイベントであった。

6. その他の調査研究

6.1 金沢まちづくり市民研究機構

平成15年9月から始まった「町づくり市民研究機構（以下：市民研）」のテーマに「金沢箔を町づくりに生かすためのデザイン研究」を取り上げた関係上、学生たちの研究とも関連性がでてきた。このため、市民研のための活動に学生たちも参加することがしばしばあり、この意味で交流の輪は広がったといえる。サインに関するアイデアも学生たちから募ったが、実際には、ただちに使えるアイデアというものを見いだすことはできなかった。しかし、若者たちが町の中にどのようなものを求め、金箔をどのように使いたいと考えているのか、その一端を知ることができたように思う。

6.2 心の道フィールドサーベイ

市民研の例会で、町の中で金箔の使用が相応しい場所を検証するためフィールドサーベイを行うこととなり、話し合いの結果、卯辰山麓寺院群をめぐる「心の道」が相応しいのではないかととなった。

これには学生たちも参加し、現地をサーベイの結果、寺院群と金箔との視覚的適合が確認された一方、「ルートがよく分からず、迷子になりそう。」「道が狭くて複雑である。」など10数項目にのぼる問題点が指摘され、これらの解決には、小さくともインパクトのある金箔サインを設置することが有効だという結論になった。

6.3 心の道サイン計画と試作

サーベイ結果を基に話し合いとアイデア出しを行い、検討の結果、試作したのは次頁以下に写真を掲載した7点とたぬきである（写真26はクレイモデルによる検討風景）。

なお素材を石材の中から選ぶこととした理由は、耐久性とともに、この地域特有の、石垣や石碑の多い景観に適合すると考えたからである。

具体的には黒御影石（中国産）、赤御影石（インド産／実際には調達の関係で在庫の中から近似のも



写真26. 「心の道」ルートにおけるクレイモデルによる検討

のを使用)、および地元産の赤戸室石を選んだ。

6.4 心の道金箔文字入りサイン試作結果

合計3種類の石材による7体の石柱サインとマスコットたぬきを試作した。評価の詳細は次項のアンケート調査結果を参照されたい。

No.1 黒御影を使用。神社の屋根の柿葺きを意識したデザインである。灯籠のように火箱をもうけ、一方は三日月、他方は満月のいわゆる有明型とした。灯籠としては昔からのデザインだが、ここでは方向を示すサインとしての役割とともに、イベント時には実際に明りがともされることも想定している。（写真27）

No.2 同じ形だが、材料は赤御影である。色の違いによる金箔の効果を見ることと共に、現地の景観にはどちらが合うのかをシミュレーションしてみる意図もある。（写真28）。

No.3 黒御影石の角柱には火箱は設けず、上面のみ鏡面研磨とし他は全面ノミ痕を残す「小たたき」で仕上げてある。1～2の切削面に較べ柔らかさが出ているのと、色彩的にも白味がましてより自然石らしくなっている。（写真29）

No.4 同上の赤御影バージョンである。（写真30）

No.5 自然石を意識した荒割肌の石柱を使用、柱のうち一稜線のみ研磨したものである。文字の上

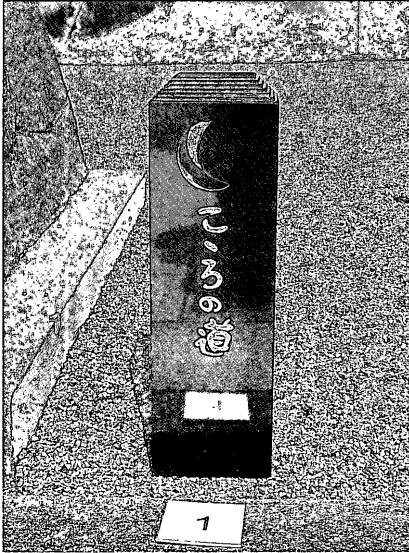


写真27. 試作 No.1黒御影石

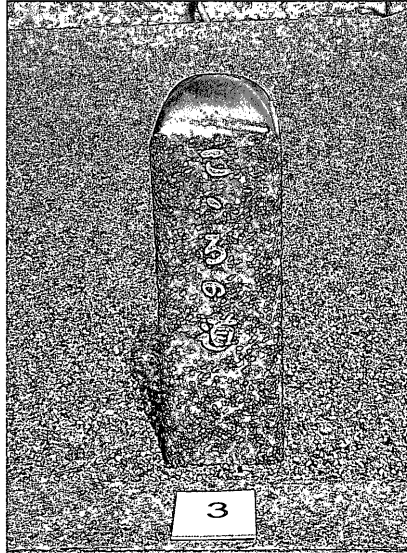


写真29. 試作 No.3黒御影小たたき

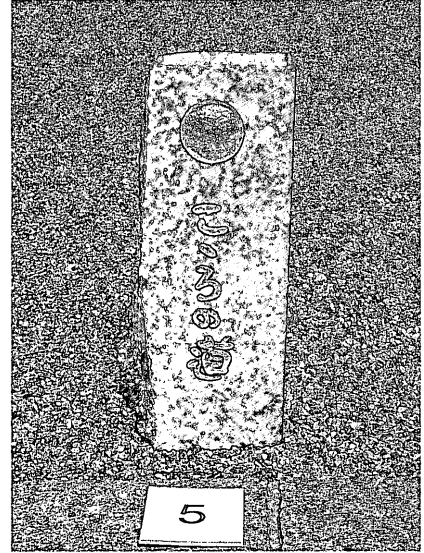


写真31. 試作 No.5赤御影割肌

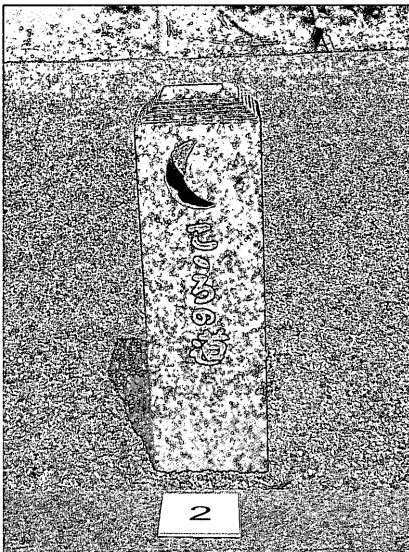


写真28. 試作 No.2赤御影石

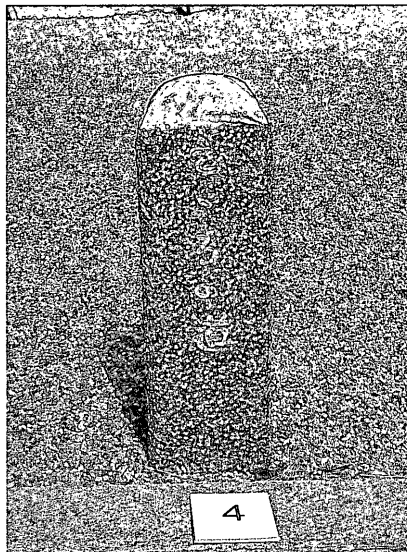


写真30. 試作 No.4赤御影小たたき



写真32. 試作 No.6黒御影割肌

にはアイキャッチャーとなるよう円を配し金箔を押ししてある。(写真31)

No.6 同上デザインで黒御影を使用したものである。(写真32)

No.7 唯一地元産の赤戸室を使用したものである。赤戸室は軟石でありもろいため、文字彫り込み後の箔張りがきれいに納まらないことが懸念され、このため唯一小たたき面をさらに掘り下げ平滑な面を作った上で文字を彫り込んでいる。こう

した処理は一般の石碑等でもしばしば見られる手法である。(写真33/次頁)

マスコットたぬき 金沢は浅野川・犀川の河岸段丘や卯辰山丘陵の緑が都心に伸びているため、野生のたぬきが夜分、町中へ出てくることが時々ある。

自然豊かなこの道のマスコットにと金箔たぬきを鋳物で作ってみたが、これも道標に使えそうだ。アンケート結果ではたぬきに第3位を付けた回答者もいて、おおむね好評であった。

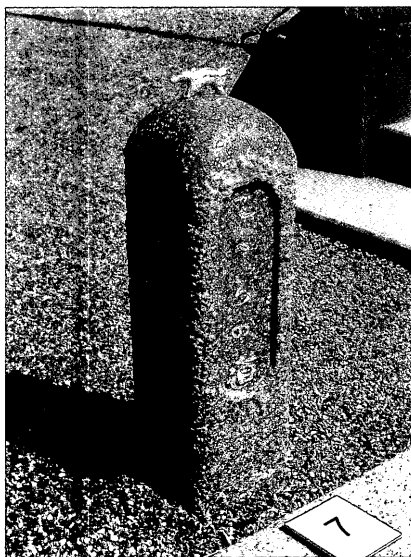


写真33. 試作 No.7赤戸室小たたき十マスコットたぬき

7. 心の道サイン、アンケート調査および結果

7.1 第1回アンケート調査

平成16年3月14日、午前中に宇多須神社で行ったアンケート調査（写真34）の結果は以下の通りである。回答者総数：95名、内、男性54（56.8%）、女性38（40.0%）、不明（無回答）3。これを居住地別で見ると県外が41（43.2%）、県内4（4.2%）、市内9（30.5%）、近隣18（18.9%）不明3（3.2%）であった。

評価は大半が観光客と思われる県外者と、地元居住者では大きく割れたことが特筆される。

則ち、評価が一番高かったNo.7（赤戸室）の場合22名（23.2%）の回答者の内、県外者は4名であるのに対し、市内在住者は8名と倍であることに加え、近隣が5名、県内が3名と、地元の割り合いが非常に高いことがあげられる。

これに対し県外者に好評であったNo.6（黒御影割肌）の場合、なんと県外者は12名で、市内、近隣の各1名に比べ圧倒的に支持されている。その理由として考えられるのは、県外者は純粹にサインとしての視認性等で判断しているのに対し、地元の回答者は何等かの知識として戸室石が特殊な石材⁸であ

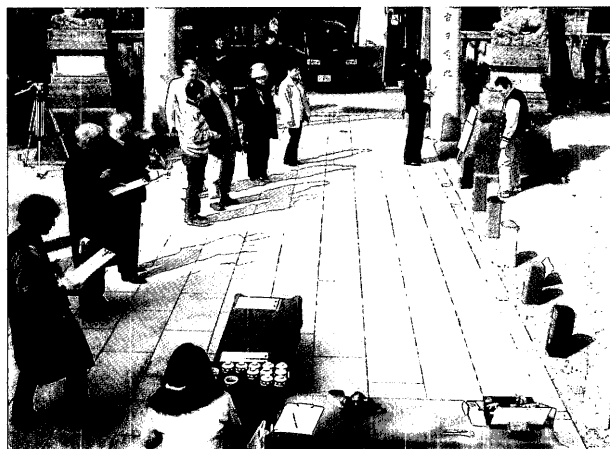


写真34. 宇多須神社におけるアンケート風景

ることを知っていたということではあるまいか。また、普段見なれた表情・色調の石材であるということが感覚的にも受け入れられたということかもしれない。データの詳細は巻末資料を参照されたい。

7.2 第2回アンケート調査結果

平成16年4月12～16日、市役所前庭が市民行事に開放された期間を利用、新館エントランスホールに於いて、第1回と同じサンプルを展示して実施した。ただし回答用紙はやや簡略化したものを用意した。回答者総数は74であったが、場所がら今回は大半が地元居住者であった。人気があったのは今回もNo.7で、しかも17人（23%）と第1回とほとんど同数値ながら、そのうち16人は市内、残る1名も県内在住者という第1回をしのぐ偏向を見せた。また第2位としてNo.7を上げた者も最も多く13人（17.6%）であった。次いで人気があったのはNo.2で12人（16.2%）続いてNo.5と6が同数の11人（14.9%）であった。

No.1に対する支持率だけは第1回に比べ約半分と大きく異なったが、ここには金沢人の色彩に関する好みが反映しているように思われ興味深い。

その他は第1回とあまりかわらず、おおむね第1回の回答者の傾向を追認するかたちとなった。

2度にわたるアンケート調査のクロス集計結果は市民研の報告書に詳しく紹介したので、同書を参照されたい⁹。

8. 金箔の耐候性試験

金箔を屋外で使用するにあたって懸念されることの一つは耐候性である。金は物理的な性質としては王水など特殊な薬液以外には侵されることがないのが特徴である。しかし、実際には長年月の間に輝きを失なったり、はがれたりして当初の姿をとどめなくなるのはなぜだろうか。金は柔らかいので、擦過が日常的に行われる部位に使用されると、当然傷がつくし、すり減り現象が起こる。このため通常は表面に保護のためのクリアー（塗料）をかけることが多い。実はこのクリアーが問題である。金ではなく表面のクリアー材の劣化からくるくすみや汚れである場合が多いからだ。次に箔を張るための接着剤が問題になる。はがれの問題は、この接着剤が被接着面からはがれるために起こる現象だからである。

平成16年2月に石川県工業試験場をおとずれ上記のことを相談した結果、本格的なオールウェザーの試験をするにはかなりの予算が必要とのことで、とりあえず耐光性の試験のみ行うこととした。

紙幅の都合上、以下に結果のみ記す。

試験片は黒御影、赤御影、赤戸室の3種類用意し、接着剤は2種類、クリヤーは2種類¹⁰とクリヤーなし、金箔は2種類用意した。試験片は各2セット用意し、1セットは暗室に保存した。40時間の暴露試験ではほとんど変化がなく、むしろ接着剤およびクリヤーが安定したためか、いずれもつやが増したように見えた。80時間暴露の結果では、やはりクリヤーなしの状態が一番美しく（変化がなく）、いずれのクリヤーもつやが落ちていた。接着剤はトレンゾーとブラックを使用したのが、わずかにブラックの方が勝っているように見えた。金箔は上質と一般的に使用されるものの2種類¹¹を試したが、特に違いはないように見えた。参考のため、墓石などに入れる金粉塗料のサンプルも作ったが、金箔にはとても及ばないものであることがわかった。

以上は目視の判定結果であり、金粉塗料以外は微妙な差異なので、参考程度にとどめておきたい。

9. まとめ

ここ迄の研究から、当初の研究目的に対して、どの程度の成果が得られたのかをまとめてみたい。

先ず、学生への影響としては、大半の学生たちは、金沢が金箔生産の独占的地域であることを知らなかったのだが、一連の活動に参加し、実際に金箔を体験することで、その魅力に影響を受けつつあることは明らかである。一例として、美大祭期間中の作品展にたいして金箔賞を設定したことに現れている。デザイン・工芸系の学生の場合も、これ迄は考えもしなかった金箔という素材を知ったことが大きい。作品のごく一部に使用する場合もあれば、検討の結果、使用しなかった場合もあるが、地域には特有の素材があり、それが文化として定着しているという事実を知ったこと自体が、創作に厚みと深みを与える結果を生み出しているように思える。

世界都市にふさわしいまちなみ景観のため、および、金箔の振興という目的に対しては下記のような結論を得た。

- 1) 公共サイン等には、もっと金箔の使用が推進されるべきである。金箔サイン試作およびアンケート調査研究を通じて得られた結果が参考となるであろう。
- 2) 金箔文化を広くアピールするため「箔まつり」イベントを推進すべきである。8月9日を「箔の日」として、業界ではこれまでイベントを行ってきたが、この日を友禅流しのように金沢市の年中行事として定着させたい。箔業界のためだけでなく、観光資源としても意味がある。なお、市民研の報告書では上記2項に加え、下記の2項目を金沢市および市民への提言として掲げている。いずれも金箔の振興に役立つと思われる。
- 3) 長い歴史が育んできた金箔文化を継承・発展させるため、伝統工芸のみならず、あらゆる美術・デザイン分野を対象とした「金箔文化賞」の創設を提案する。泉鏡花文学賞のように全国に発信する効果に期待したい。
- 4) 金箔文化・産業情報センターの設置。将来的に

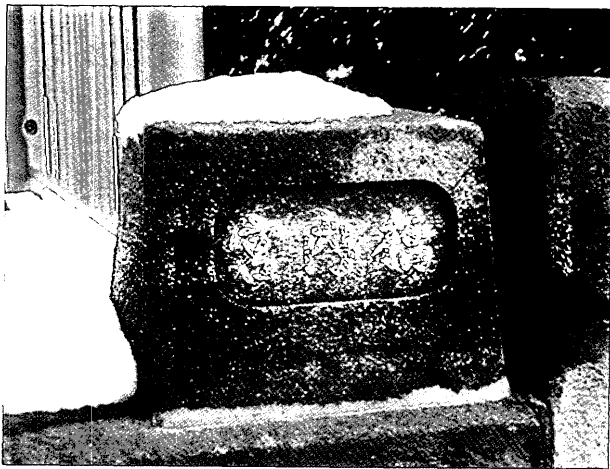


写真35. 初めて採用された公共サイン「宮内橋」橋名盤

は「黄金の国・ジパング」の中心都市として、世界に向けてこのセンターが金箔文化のメッカであることをアピールする。金箔に関するあらゆる情報・作品の収集、展示はもちろん、産業に関する振興策や研究業務も支援する。

10. おわりに

平成17年度は筆者と金箔業界との協同最後の年となるが、今後は問題提起としての役割から一歩踏み出し、地道ではあっても永続的な運動となるような実質的な活動へと切り替えていかねばならないと考えている。

経済産業省による伝統的工芸品産業活性化事業への最終提案に向けては、今後さらに他方面の専門分野との関係による活発な活動の展開が必要になってくると予想されるが、本研究がきっかけとなり、他分野との連携が進展することを期待したい。

なお、市民研の研究成果として「公共サイン」と「箔まつり」に関する一定の理解が、行政当局から得られたことから、業界全体を巻き込んだ本格的な活動が動き始めようとしている。ちなみに写真35は昨年10月に初めて公共サインとして採用された橋名盤である。また同36は同月に開催された日仏金箔フォーラムにおける会場装飾だが、ともに公共の場における金箔の可能性を確信させるものとなった。

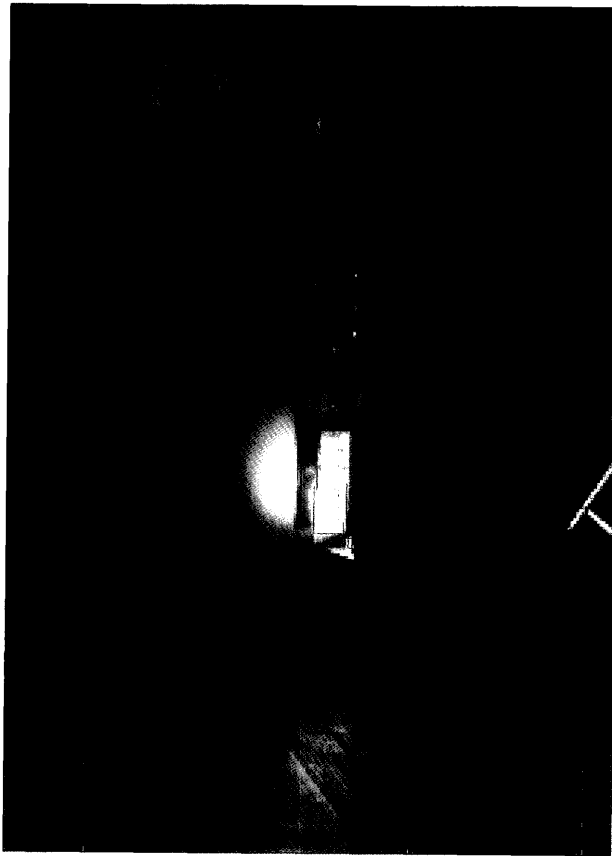


写真36. 日仏金箔フォーラム会場装飾

このプロジェクトを機会に、あわせて、環境デザインが社会において果たすべき役割が認知され、評価が定着することをも期待したいものである。

末尾になったが、プロジェクトに賛同して参画・協力を惜しまなかった学生諸君・教職員の皆様、県市の担当職員の方々、そして、金沢箔青年会の皆様の熱意に対し敬意と謝意を表しておきたい。

注

- 1 マルコ・ポーロ「東方見聞録2」愛宕松男 訳注、pp 133-134平凡社、1971
- 2 平成7年12月に金沢市が策定した長期構想。
- 3 下出積与「加賀金沢の金箔」株式会社北国出版社刊 昭和51年より、一般に流布している数カ所を引用。
- 4 代替えは通常よほど老朽化しない限り行われず、購入サイクルとしては非常に長くなる。
- 5 金沢まちづくり市民研究機構「16年版研究成果報告書」

- 「金沢箔を生かした町づくりデザインの研究」PP23-24。
- 6 浅野川右岸のこの辺り一帯は藩政期以来今日まで箔打ち業の盛んな地域である。
- 7 ポリメントとは表面をめのう棒で研磨し光沢を出す西欧式の箔押し技術である。
- 8 戸室石は金沢近郊の戸室山から採掘される安山岩系の軟石だが、藩政時代は城や武家屋敷、寺院等の格式ある場所にも使用が認められていた。

- 9 これらのデータの詳細は、前傾書（注5）に掲載したので、同書または下記 URL を参照されたい。
<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/shiminkikou/1kiseika/1kiseikah.htm>
- 10 接着剤は「トレンゾー」「ブラック」とともに商品名。クリアーはウレタン系とシリコン系を使用した。
- 11 5毛色は金の割合が98.912パーセント、4号色は同じく94.438パーセントである。

* 付表は、7体のサンプルに対し被験者がどれを選んだかを、属性（年代、居住地、性別）毎に示したものであり、数値は人数である。

付表1. 第1回アンケート調査結果＜年代別＞

年代	Na1	Na2	Na3	Na4	Na5	Na6	Na7	不明	小計
10代	2	1	0	0	1	0	0	0	4
20代	2	0	2	1	2	4	1	0	12
30代	2	3	1	1	1	1	4	0	13
40代	1	2	0	0	5	5	2	0	15
50代	4	1	3	1	4	3	5	0	21
60代以上	4	7	4	0	3	2	9	0	29
不明	0	0	0	0	0	0	1	0	1
小計	15	14	10	3	16	15	22	0	95

付表4. 第2回アンケート調査結果＜年代別＞

年代	Na1	Na2	Na3	Na4	Na5	Na6	Na7	不明	小計
10代	1	1	0	1	1	0	1	0	5
20代	3	3	0	1	3	1	2	0	13
30代	3	0	0	0	2	3	3	1	12
40代	1	4	2	1	1	5	6	0	20
50代	0	2	0	1	3	0	3	0	9
60代以上	0	2	3	1	1	2	2	3	14
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	8	12	6	5	11	11	17	4	74

付表2. 第1回アンケート調査結果＜居住地別＞

居住地	Na1	Na2	Na3	Na4	Na5	Na6	Na7	不明	合計
県外	6	4	6	2	6	12	4	0	41
県内	1	0	0	0	0	0	3	0	4
市内	5	6	1	1	7	1	9	0	29
近隣	2	4	3	0	3	1	5	0	18
不明	1	0	0	0	0	1	1	0	3
小計	15	14	10	3	16	15	22	0	95

付表5. 第2回アンケート調査結果＜居住地別＞

居住地	Na1	Na2	Na3	Na4	Na5	Na6	Na7	不明	合計
県外	0	2	2	2	1	1	1	0	9
県内	0	0	0	0	1	1	0	0	2
市内	8	8	4	3	7	8	16	3	57
近隣	0	2	0	0	2	1	0	0	5
不明	0	0	0	0	0	0	0	1	1
小計	8	12	6	5	11	11	17	4	74

付表3. 第1回アンケート調査結果＜性別＞

性別	Na1	Na2	Na3	Na4	Na5	Na6	Na7	不明	小計
男性	8	6	6	2	7	11	14	0	54
女性	7	8	3	1	8	4	7	0	38
不明	0	0	1	0	1	0	1	0	3
小計	15	14	10	3	16	15	22	0	95

付表6. 第2回アンケート調査結果＜性別＞

性別	Na1	Na2	Na3	Na4	Na5	Na6	Na7	不明	小計
男性	6	6	3	2	6	8	8	2	41
女性	2	6	3	3	3	3	8	1	29
不明	0	0	0	0	2	0	1	1	4
合計	8	12	6	5	11	11	17	4	74

付表7. 第1回アンケート設問

心の道「道しるべ」アンケート

問1. どちらからいらっしゃいましたか

☐ 県外 ☐ 県内 ☐ 市内 ☐ 近隣

問2. 年代は

☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代

☐ 60代以上

問3. ☐ 男性 ☐ 女性

問4. 7本の石柱につき良いと思う順に番号をふって下さい。

1位☐ 2位☐ 3位☐ 4位☐ 5位☐

6位☐ 7位☐

問5. 上記の1位と思うものについて下表7段階の評価欄に○印をつけてください。

	非常に	かなり	やや	ふつふつ	やや	かなり	非常に
(例) つまらない				○			
よそよそしい							
醜い							
かたい							
閉鎖的な							
東洋的な							
野暮な							
重圧な							
緊張した							
人工的な							
落ち着いた							
平凡な							
陰気な							
静的な							
地味な							
金沢らしい							
分かりやすい							
楽しい							
親しい							
美しい							
柔らかな							
開放的な							
西洋的な							
洗練された							
軽快な							
くつろいだ							
自然な							
活気のある							
個性的な							
陽気な							
動的な							
派手な							
らしくない							
分かりにくい							

付表8. 第2回アンケート設問

金箔サイン評価アンケート

問1. どちらからいらっしゃいましたか(お住まい)

☐ 県外 ☐ 県内 ☐ 市内 ☐ 近隣

問2. 年代は

☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代

☐ 50代 ☐ 60代以上

問3. ☐ 男性 ☐ 女性

問4. 好きな3つを選んで下さい(番号で)

1位() 2位() 3位()

問5. 上記についてあてはまる言葉を5つ以内選んで○で囲って下さい。

- ・楽しい ・親しみやすい ・美しい
- ・堅固な ・柔らかない ・東洋的な
- ・西洋的な ・洗練された ・重厚な
- ・軽快な ・緊張感のある ・くつろいだ
- ・自然な ・落ち着いた ・活気のある
- ・個性的な ・普遍的 ・陽気な
- ・金沢らしい ・都会的 ・分かりやすい

問6. このようなサインを設置することに

☐ 賛成 ☐ 反対

☐ その他(自由に記述)

問7. たぬきのマスコットは

☐ 賛成(理由を次の言葉から選んで下さい。)

- ・かわいい ・こころ和む ・ほほえましい
- ・親しめる ・分かりやすい
- ・その他(自由に記述)

☐ 反対(理由を次の言葉から選んで下さい。)

- ・かわいくない ・なじめない ・怖い
- ・分り難い ・こわれやすそう ・盗られそう
- ・その他(自由に記述)

(くろかわ・たけと 環境デザイン)

(2004年10月29日受理)